



神辺中だより

2

令和4年5月
神辺中学校長

図書の寄贈について

コロナの影響で、屋外で過ごすことがここ数年減少し、生徒の中にも、「家で本を読むことが増えた」人もいるかもしれません。また、本校では毎朝10分間「朝読」を行っています。時々、生徒の中には「朝読む本がない」「忘れた」という子や「読むのが嫌い」な生徒もいることでしょう。どちらかと言えば、私も本を読む事はそれほど好きな方ではないので、内容より読み切ったときの「達成感」に喜びを感じたりすることもあります。本を読む事は、内容にもよりますが、「マイナス」は無いと思います。好きな人はさらに、苦手な人も少しでも本に親しみ、「読書」を通していろんな感性を磨いてみませんか。たかが10分、されど10分です。

そんな中、4月26日(火)、「市内の児童・生徒の皆さんに、本に親しんで欲しい」と、有志の方で組織された「子ども応援団」の方から図書を寄贈していただきました。「どんな本を中学生は好むのかなあ…」と少し不安を感じられていましたが、どっさり750冊の本を寄贈してくださいました。いろんなジャンルの本がありました。準備が整い次第、各教室や校内に配置したいと思っています。



【子ども応援団の皆さん】

神中ばら会 「優秀賞」

「神中と言えば…」バラと答える生徒が多く、また、地域でも「神中のバラ」を知っている人が増えてきました。



今年も「第54回ばら花壇コンクール」が開催され、『神中ばら会』も5月7日に審査を受けました。

審査に向けて、会長の山田さんをはじめ、ばら会を支えて下さっている地域の方々や中学生のボランティアと共に、草取りや掃除等、環境整備を行いました。



【審査の様子】

市内で多くの団体がコンクールに応募し、今年も**優秀賞**をいただきました。



【表彰式 会長 和田君】

バラ園の活動を通して地域の方々と接し、手をかけることで愛着もわき、一緒に作業をする事や思いを共有したり、共感したりする等、感情や考え方など大切なことを学んでいるのではないのでしょうか。「神中と言えばバラ」をもっと広げていきたいですね。



【審査員の皆さん】

学校の様子

新年度が始まり、2ヵ月が経とうとしています。コロナの影響により、学級閉鎖や行事の見直しを余儀なくされ、生徒にとっては少し残念な思いをさせています。

しかし、こういう中でも、子どもたちの「学びを止めない」ために、タブレット等で授業を進め、生徒はオンライン教材等も効果的に活用してもらいたいと思っています。

さて、4月から2か月弱の間に、多くの方が学校へ来られています。学校に来られる方は、直接的、間接的に生徒に関わりがある方ばかりです。

来校された方から「中学生は、挨拶をよくしますよ」また、「靴やカバンがきれいに整頓されてますね」と生徒達を褒めてくださった方もおられました。一方、別の地域の方から「自転車のマナーが悪い！ノーヘルじゃし」時には「注意を聞いてくれない」と学校へ情報を頂くことも。

授業では、何とか理解しようと一生懸命質問していたり、先生の言葉に耳を傾け、自分の中で思考している姿をよく目にします。時には、タブレットで授業には関係ないものを見ていたりする生徒も見受けれます。

学校では、よりよい判断でよりよい行動を目指すことで、自分や相手を大切にでき、お互いの命を守ることもなり、自分らしく自分の「生き方」にもつながってくることも話しながら生徒と関わっています。

ご家庭でも日頃からお子さんに学校の様子を聞かれているとは思いますが、話題のひとつにしていただければと思います。